



国際シンポジウム—第6回ADC研-Symposium

ADC

大学院特別講義「国際感染症—パンデミック」

2014年8月9日（土）14:00～16:00 本部棟2F 臨床大講堂

Web http://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/laboratory/adc_lab/

Contact to: office-adc@med.teikyo-u.ac.jp

感染防御と遺伝子治療

開催にあたって 冲永寛子副学長

Gene therapy for CGD and host defense

司会：鈴木和男（帝京大・ADC研所長）

Speaker: Dr. Harry Malech (Labo Chief, NIAID-NIH, USA)

日本の慢性肉芽腫症の統計解析—興味深い症例報告を含んで—

司会：小林茂俊（帝京大・医・小児科教授）

講演：布井博幸（宮崎大・小児科教授、医学科長）

活性酸素産生NADPH oxidasesの食胞・頂側膜へのターゲティング及び
会合メカニズム

司会：斧 康雄（帝京大・医・微生物学教授）

講演：上山健彦（神戸大・バイオシグナルセンター准教授）

閉会挨拶：冲永佳史学長

教職員、学部生
もどうぞ

懇親会も気軽にどうぞ：病院6F グリーンハウス

2nd ADC International Symposium

Saturday, August 9, 2014 14:00 - 16:00 Auditorium of Teikyo University

Host defense and gene therapy

Opening: Vice President Hiroko Okinaga, Teikyo University

Gene therapy for CGD and host defense

Chair: Kazuo Suzuki, ADC Director

Dr. Harry Malech, Labo Chief, NIAID-NIH, USA

Statistical analysis of CGD in Japan

-including reports of interesting CGD cases-

Chair: Prof. Shigetoshi Kobayashi, Pediatrics, Teikyo University Medical School

Professor Hiroyuki Nunoi, Div. of Pediatrics, Dept. of Rep & Developmental Med., Faculty of Med. Univ. of Miyazaki, JAPAN

Targeting and assembling mechanisms of NADPH oxidases at phagosomal and apical membranes

Chair: Prof. Yasuo Ono, Microbiology, Teikyo University Medical School

Dr. Takehiko Ueyama, Biosignal Center, Kobe University

Closing: President Yoshihito Okinaga, Teikyo University

2nd ADC International Symposium

6回ADC研シンポジウム

「感染防御と遺伝子治療」のご案内

今回の国際シンポジウムでは、好中球、マクロファージなどの食細胞機能不全である慢性肉芽腫症(CGD)について、その遺伝子の発見から、遺伝子治療まで手がけられている米国NIHのDr. Harry Malech主任室長に「CGDの基礎研究と治療法」および、宮崎大学医学部生殖発達医学講座小児科学分野教授に「日本における約300名の患者の統計と症例報告」を講演していただく予定です。

貴重な機会ですので、ぜひ、ご参加ください。

ADC研開設以来、学内外の講師をお招きし、感染症にかかわる研究や業務についてのシンポジウム、フォーラム、講演会などを開催してきました。

今回のフォーラムの「感染防御と遺伝子治療」の背景は、感染症防御には、自然免疫と獲得免疫系が知られており、前者には上皮細胞や好中球、マクロファージが、後者は免疫グロブリンに代表されるBリンパ球やそれらの制御に関わるTリンパ球の関与が明らかになってきており、各々の免疫不全症が知られています。その不全に対する遺伝子治療の最前線を話してもらうことにしました。